

牧之原市教育委員会 会議録

令和4年12月15日、牧之原市教育委員会が牧之原市役所相良庁舎会議室に招集された。

この委員会に付議するため、教育長の告示した議案は次のとおりである。

付議議案

議案第20号 新たに設置をする学校用地候補地について

出席委員

1番 橋本 勝	事務局	教育文化部長	内山卓也
2番 吉住幸子		スポーツ推進課長	大石昌秀
3番 寺井ゆみ		学校再編推進室長	水野敬子
4番 池ヶ谷裕太		教育総務課長	佐々木悟
5番 渡辺彩子			

開会時刻 午後1時 牧之原市役所相良庁舎会議室

教育長挨拶

皆さんこんにちは、12月も半ばとなり、年末に向けてせわしない日々を送ることになりそうです。その中で、本日、臨時会を開催させていただきました。お忙しい中、ご都合をつけていただきありがとうございます。

去る、12月10日に学校用地候補地選定委員会の佐藤委員長から報告書が市長及び私のところに提出されました。

本日は、その報告書に記載されております、新たに設置をする学校用地の候補地について委員の皆さんにご審議いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会議録署名人の決定（事務局より指名）

橋本教育長と池ヶ谷委員を指名

議案第20号 新たに設置をする学校用地候補地について

（学校再編推進室長より説明）

質疑・応答後、承認された。

○教育長 説明が終わりましたので委員の皆さまから質疑を行いたいと思います。委員の皆さまには、報告書に示されております榛原地域、相良地域の2箇所の学校用地の候補地について、ご意見とご質問でも結構ですので発言をお

願いたいと思います。まず、榛原地域から行いたいと思いますがいかかでしょうか。

○池ヶ谷委員 今日、ここで決定という形になるのですか。イメージしていたのは、基本構想の中に候補地を入れるため、学校用地候補地選定委員会で、まず最初にそこを決定し、最終決定としては、基本構想の中に書かれ、それが最終決定だと僕は認識していたんですが、この決定はどの程度のものなのか。

○学校再編室長 これから基本構想・計画の中で通学方法や学校の施設をどのようにしていくかを検討していきますが、その中で学校の場所がどこか、はっきりわからないままだと検討しにくい部分があります。今はこのエリアを候補地とするということで検討を始めます。配置計画など概ね出来上がったら、敷地面積がどの辺までという境界線、どこまでを学校用地とするかというところ、地番をはっきりさせたものを、今度は基本構想・計画の中に入れ込んでいくというイメージです。この候補地を基にして、基本計画・構想を練っていく。そのように考えるための事前の承認をいただくものです。

○教育文化部長 基本構想の中で資料1の裏面の今後についてというところで、最終候補地は基本構想・計画の基礎資料を挙げます、要するにこの2箇所の候補地を基に、基本構想・計画を検討させていただいたということで、最終候補地の施設の配置や機能を議論させていただいて、学校敷地をかなり明確にして、そこを基本構想・計画における議論をするなかで、最終的にはこの策定をもって候補地として決定をしたいということなので、今日は候補地の承認という形をお願いしたい。そのようなイメージです。

○池ヶ谷委員 基本構想の中で例えば何か具体的にしていって途中で、もっとこうの方がいいとか、通学方法の関係でも無理なことが出てきたとなったら、解決の余地があるのかないのかを知りたいと思います。

○教育文化部長 あると思います。例えば、今報告書の3ページに表題で書いてありますけれども、今の学校教育活動をなるべく制限して生活しないように、あるいはこの既存の施設がローリングしていかないといけないと思うんですが、そのような意味では、もう少し敷地を広くしながらやっていきましょうというところは、これから実際議論される場所なので、もう少し広く、その道路はどうしましょうなど、そういうことは変更の余地がある。あくまでもこの辺ということで決定、提案になります。

○池ヶ谷委員 わかりました。

○教育長 今の主張を基に、池ヶ谷委員から榛原地域に関しては2箇所の候補地がありますが、榛原中学校周辺で委員の皆さんが評価項目、評価の視点をもとに採点していただいて、ここが良いと思ってくれないかということでまとめていただきましたが、それについてご意見いただければと思います。

○池ヶ谷委員 何回か選定委員会に出させてもらい、いろんな話がされてい

たので榛原地区に関してはいいのかと思っています。

○教育長 付帯意見が付けられていますが、このことに関してでも結構です。

○吉住委員 前から出ていますが、特に坂部地区の板倉委員から通学路のアクセスを非常に心配していて、私も毎日通るんですが、確かに危険であまりの勾配に、いつ中学生が自転車で転ぶだろうという感じで見ているので、もちろん候補地は決まったんですが、高低差を変えろとは一体どのようにしてやるんだろうかと思っています。それらもこれから詰めてくということですね。

○教育文化部長 そうです。通学路の話は候補地が決まれば、具体的にどこが課題か新たに出てきます。そうすると具体的に検討ができますので、仁田坂をあれ以上下げることは多分できないと思うんですが、中学校でするので現状は変わらないということの中で、どのような安全対策ができるかなど、昨日の庁内会議の中では、市長から仁田や庄内、竹橋という小さな橋があり、そこは狭くて、そのようなところは建設部門で検討するよという指示も市長から出てました。歩道、あるいは今後スクールバスが使われるにあたっての課題などは当然出てきますので、それはこれからの話の中で整理して、なるべく開校までに可能な範囲で対応していく。ここについては、特に河川の浸水のことがありました。校舎自体はこれまでも浸かったことはないんですが、そうは言っても何とかならないかということで、勝間田川の河川対策をどうしていくかということもじっくり考えていかなければと思っています。これらは、市全体のまちづくりをどうしていくかという議論になりますので、今決定している方針としては、都市計画マスタープランという市の都市計画の基本的な計画の見直しと、それから新たに立地適正化計画という国交省が所管する計画を作り、今後のまちをどうするかということをおある程度明確にしていくということをお数年間、取り組んでいく形になっています。そのような中で道路はどうしていく、河川はどうしていく、あるいは、この周辺の開発をどうしていくかなど、どのように誘導していくかという話になっていきます。今回は、その第一歩として初めて候補地が決まるのであれば、それに向けていろんなことが動いていくようなことになる。これで候補地として決まると、いろんな各論として課題が出てきますので、それは開校までになるべく解決をしていく。あるいは方向性をしっかり出してくということが必要だと思います。

○吉住委員 わかりました。

○教育長 吉住委員からは、榛原中学校周辺ということでありましたが、そこに関しては、通学路のことについて心配な点が出されました。

○寺井委員 通学路の事は、片瀬委員も言っていて、私も小学生が通うというという視点で、通学路というのはどうなるのかと思いました。相良地域のことでお開校が遅れるというスケジュールがありますが、榛原地域はこの

とおりに進んでいくのですか。

○教育文化部長 榛原地域については、2030年の開校を目標として再編計画はなっていますが、これから具体的に建設計画を来年まで検討していきます。いつの時点で何をどうしてやっていくかということをやっていくと、本当に開校が2030年になるのか、いろいろ方法があると思うので、今後、検討します。前倒しということもあるかもしれないし、例えば先に中学生だけを新しい学校で開校して、その次に小学校ということも考えられるため、それはこれから議論をしていき開校時期を決めていきたいと思っている。相良地区については、農振除外の関係から2030年は無理そうだとするところは前提とし、この校地は、提案をさせてもらったということです。

○寺井委員 わかりました。

○教育長 寺井委員からは、榛原中学校周辺の中で通学のこと、そのスケジュールについて質問が出てきたということでもあります。

○渡辺委員 私も、だいぶ煮詰まってから参加しているので、質問させていただくことはありません。浜岡中学校は学校もやりつつも校舎建設を同時進行でやっていたので、工事してるね、でもみんな勉強するんだよと言えば、それはそれでやってくれると思うので、子どもが勉強しているから工事の音はどうなのかと、そちらは気にしすぎずに同時進行でやっていただけたらと思います。

○教育文化部長 例えば、榛原地区については、現校舎がありますのでしっかり維持管理しながら開校までこの校舎でやっていただく。浜岡中は既存のところに建て替えだったので、仮設校舎を作ってやっています。ただ、ここで付帯意見としてご心配いただいたのは、例えば一定期間に体育館が使えなくなってしまう、あるいは工事現場と隣接しますので、子どもたちが、危険にならないようにとか、そのようなことも含めて対応していただきたいというようなことと思っています。

○渡辺委員 校舎は最終的には取り壊すのですか。

○教育文化部長 どのようなタイミングで壊すかということは決まっていません。先ほど中学校と小学校の時期をずらすこともあるということは、新しい校舎ができ、ある程度できたら最初に中学生だけ新しい校舎に移るということであり、その後、校舎を壊して綺麗になった時点で小学校と一緒にし、義務教育学校にするという段階をふむやり方もあるかなということです。何が一番適切なのか、あるいは、なるべくお金がかからない方法など、そのようなところをしっかりと1年間の中で建設計画、配置計画を考えていきたいと思っています。

○教育長 渡辺委員からは、榛原中学校及びその周辺の中で工事のスケジュールに関する質問がありました。委員の皆様にお伺いしたいのですが、榛原地域は2ヶ所の候補地があった中で、選定委員会の中では榛原中学校の周辺

ということで報告をいただいたわけですが、これについては皆さんよろしいということでいいでしょうか。

〔委員一同 「異議なし」〕

○教育長 榛原地域は終了しまして、相良地域についてご意見を伺いたいと思います。先ほど説明にありましたが、相良地域については工事の完成スケジュールが遅れるという最大の課題が出てきたんですけど、この点もありませんが、総合的にこの五つの候補地から大沢インター北側周辺という候補地に絞り込まれたわけですが、この候補地のこと、あるいは先ほど榛原地域で出していただきましたように、これに関してまた課題や心配、あるいはもう少し詳しく聞いてみたいという点がありましたらお願いします。

○渡辺委員 民有地もあるとこちらにありますけど、8年経過した後から交渉に入ってくるか。それが例えば難航したらどんどん遅れてくるのですか。

○教育文化部長 令和元年の7月に畑総の事業は完了してますので、令和9年度が8年経過ということで、令和10年から農振除外の手続に入れるということです。この間、何もしないということではなく、地権者に少しずつ回らせていただき、測量をする同意をいただいたりしていき、この埋蔵文化財の調査は市の土地にならないとできないので、この令和10年度に除外ができたなら、即、用地の契約ができるような段取りをこの数年間でやっていきたいと考えています。令和10年からいろんなものをスタートするよということではなく、基本設計、実施設計もやりつつ、一気に進められるように段取りを組んでスケジュール感を持ってやっていく。教育文化部だけでなく様々な部署が関わりやっていきます。それから、実際に造成に入るには、ここに至るまでの進入路が必要になりますので、令和6年ぐらいから進入路の工事着手に入り、そこに関わる場所の用地買収や先行取得も考えられます。除外の手法についても、一番最短なスケジュールというものを組んでいきたいと思っています。担当課などと協議をしながら前倒しができるか探っていきたいと思っています。

○教育長 渡辺委員の中は、五つの中の大沢インター北側周辺というのは、自分の中でいいということでよろしいですか。

○渡辺委員 そうですね。榛原の方は元々あるので想像が付きやすいというか、今回のところは山や家もあるようなところですよ。

○教育文化部長 そうですね。5ページの絵を見ていただくと、ほぼなだらかな丘陵で高低差は10メートルぐらいしかないと思いますので、一部山を削っていきますけども、大規模に山を削ってということではないです。どちらかといえば田んぼ、畑がありそこがこの受益地にかかっている。

○渡辺委員 なかなか想像が付きにくいですけど、他のところも厳しいところがたくさんあり、他のところは厳しすぎるのでこちらがうまく行くようになればと思います。

○教育長 渡辺委員からは用地取得の件について心配な点がございました。五つの中でここで良いという所を言っていただければと思います。

○寺井委員 大沢インター北側周辺ということで、私はいいと思います。畑総の話聞いたときはすこしばかりしましたし、地区の人たちもどういう意見を言うのか心配でしたけど、理解をいただいて良かったと思いました。

○教育長 スケジュールの件で、地元だからこそその心配というか、まだオープンにはなっていませんが、関係する人たちが携わってくださっていますので、そういう声が聞こえたということでありました。

○吉住委員 この選定については賛成です。あと一点ですけれども、ここが、畑総の関係で遅れるということについて、寺井委員も心配していたように、しっかり決めていただきたいと思います。私達がこの委員会をやってる中で、やはりこの学校再編について反対の意見も聞こえてきますが、私はここに入ることをすごく楽しみにしている親もたくさん知っているのです、少し遅れても実現できればと思っているんです。間に合わないという人たちにはとても申し訳ないのですが。

○教育長 吉住委員からは大沢インター北側周辺ですが、できるだけそこについてはスケジュール感を詰められるところは一生懸命努力をしてほしいという要望がだされました。

○池ヶ谷委員 候補地の中から大沢インター北側周辺で決まったのは良かったと、候補地の選定委員会でも議論されてのことなので、そこはいいかと思っています。開校時期がずれるのだけが気になっていて、法律にのっとり、必要な手続きで遅れることは仕方がないと個人的には思っています。今、吉住委員の話で、確かに今まで2030年を楽しみにしてきた人たちからしたら、自分の子どもが通えるかもしれないと思ってきた人たちからしてみたら、なかなか受け入れられないところはあるなと思いましたので、何とかなればと思います。その開校時期が延びることまで含め、この候補地の選定委員だけの了解で進めていいのかどうなのかというのが心配で、今まで再編計画を作るところでも、2030年というのが広く市民の中に広まっている中で、この候補地選定委員の判断だけで3年延びてしまうことが果たしていいのかと気になりました。もし、3年延びるのであれば、他の候補地が本当はないのかなとは思っています。その畑総受益地のところでも、そういうところがないのかという意見が出てきてしまったりということもあるんだろうと思いました。

○教育長 先ほど室長から、相良地域についての選定委員会が、最初に第3回のところで大沢インター北側周辺を最終候補地として決定したけど、その後、畑総受益地があることが判明したということで、再度そこについてご審議いただいたがそれを踏まえても、やはり委員会としては、候補地を変更しないということを決めたということでありましたが、池ヶ谷委員が心配するのは、そうした上でも何か他になかったのかなということですね。2030年

を変えないということを前提にすれば、また違う候補地が浮かんだらどうかというところも心配されていましたが、それについてどうでしょうか。

○教育文化部長 2030年というのは、候補地が決まっていな中で目標年次を定めたものでありますので、そこは当然皆さんにすでにお示しをしてあるんですが、あくまでも目標年次ということで、そこに向けて何ができるかということで議論させてもらいました。今回の選定委員会は、開校内容を決める委員会ではなくて、あくまで候補地を決めるということで、当然その中の審査項目、要素としては、開校年次に間に合う候補地かということも当然ながらあって、そこも審議してもらったんですが、この委員会の中ではご意見の中で、50年、100年使うものにこの3年のために、ここが最適であるにも関わらず別のところにするのが適切ではない、遅れてもここがいいのではないか、そのような意見だったと思います。開校年次については、選定委員会の話が出ましたけれども、あくまでも基本計画の構想の中で決めていくということでことです。あくまでも候補地に決めたということは、遅れる可能性があるという前提ということでご理解いただきたいと思います。他の候補地があったら、今回5箇所の候補地が出ていましたが、他の候補地なら2030年に間に合うのではというところがないのかということなんですけど。

○池ヶ谷委員 どちらかという逆です。例えば、もし伸ばすのであれば、他の最適な候補地がその候補に上がるのではないかとということです。

○教育文化部長 そこは2030年までに間に合わせる他の校地は選ばないという判断をしてもらったと思っています。

○池ヶ谷委員 この候補地に挙げた時点では、2030年に間に合う候補地が多分上がったというように理解しているんですが、例えば、ことがわかっているならば今の沢インター北側というところは候補地には上がらなかったと思うんですが、そのようなことはないですか。

○教育文化部長 例えば、他の候補地でも大小ありますが様々な要因があり、実際、いろんな手続を精査しながら、やはり間に合わないところは出てくる可能性が当然あります。あくまでも開校年次だけにこだわってしまうと、多分どこも決められない状況だったのかなと思います。この話が出てきたのは後出しだったということで、本当に申し訳なかったと思いますけれども、このことがもし事前にわかっていたら、当然、この候補地については2年ないし3年遅れる可能性がある候補地ということを示しながら、最初から審議してもらえばよかったと思います。教育文化部だけではなくて他の部署が集まってどこがいいのかという議論をかなりやり、その中で絞ってきたということもあり、その校地しか出せなかったのかと言われると難しいというのが実情です。

○学校再編推進室長 校地の選定は、面積がある程度取れるところを主に考えていたところで、再編計画にある津波浸水想定区域外のエリアで、その面

積を取れるところを選定したんですが、今回の受益地のことだけを考えると、五つの候補地の中にも受益地を含む候補地がありますし、グラウンド利用者との調整に時間がかかるのではないかとということもあって、開校目標の時期のことだけに関しますと、他のところが勝るといふようなところ、なかなか難しいということと、資料の21ページ、ここに各項目の評価をさせていただき、5番目の用地・建設のところ工期の確保というところがありますが、ここを今回遅れるということ踏まえて、もう1回点数をつけ直しいただきました。その結果がここにあるんですが、教育環境とかアクセスとか、他の項目の評価が高かった、そういった面で大沢インター周辺はトータルすると5候補地の中では、一番いいのではないかと選定委員の決定になりました。

○教育長 池ヶ谷委員のおっしゃるのもよくわかるんですね。結局、まずかったのは1回決め、次の段階で畑総の受益地があるということが出てきたために、工期が遅れるということだけが注目されてしまうということで、特に相良地域の中ではそれが出てくるのかと。ただそこはもう1回その部分を含めて再評価をした中でも、やはりここがいいという評価がされたということになりますので、ここは当然わかりました3年後ですねということではなくて、現時点でできるだけそこを短縮するような努力が必要で、そうすると、教育委員会だけではできませんので、様々な人と関わって、前倒しできるような努力をしていきたいと思っております。もちろん榛原地域が順風満帆に行くかという、また予期せぬことや、あるいは学校の教育活動しながらやっていく中で、非常に困難な問題にぶつかるのかもしれないということも心配で、そのあたりをクリアしながらいきたいと思っております。それでは、今、榛原地域、相良地域の両地域の候補地について委員の皆さんからご意見いただきますが、全体を通して何かありますか。

○渡辺委員 特に質問ではないのですが、まさにうちの子が行けるかどうか関わるので、吉住委員もおっしゃいましたけど、関わる方としては本当に入れるのか入れないのかとか、上の子は行けないけど下の子は行けるとか、微妙です。長いスパンで考えたら、3年ぐらいなんですけど、通う方の保護者の皆さんや、2030年を考えて楽しみにしている人たちは、わが子のこととなると多分皆さんすごいエネルギーで駄目だった時に「わぁ」となってくるのもあると思うので、重々承知はしていますが、いろいろな問題が出てくると思っていますのでよろしくお願いします。

○教育文化部長 覚悟しなければと思っています。行政の判断としてはお金をかけて、長い間使っていく中では本当に申し訳ないのですが、なんとか2030年に前倒しをしていくというのが現状、非常に苦しいなというのも事実です。これまで検討委員会や市民の方の声を聞いていく中では、2030年をもっと前倒しできないかというような意見はたくさん出ていましたので、そういった

意味で遅れることは本当に申し訳ないと思います。

○教育長 渡辺委員から代表として、個人ではなく相良地域の住民を代表しての強い要望というのはされましたけども。

○吉住委員 いいのではないですかね。みんながすごく期待していらっしゃるというのは、実際やるスタッフにしてみるとすごく励みになると思う。

○教育長 ありがとうございます。それではここで閉じたいと思います。新たに設置をする学校用地候補地について、この別紙として報告書も出されていますが、この報告書のとおりこれを承認するでよろしいでしょうか？

〔委員一同 「異議なし」〕

○教育長 それでは承認をされました。本案については原案の通り可決いたしました。ありがとうございます。

(閉会時刻 午後 2 時 10 分)